

令和5年度 第1回 八千代市上下水道事業運営審議会会議録

開催日時 令和5年11月7日(火)
午後2時 開会 午後3時50分 閉会

開催場所 八千代市上下水道局 2階 大会議室

議題 (1) 令和4年度決算の報告について
(2) 第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び、第2次八千代市公共
下水道事業経営戦略実施計画の令和4年度取組状況の報告について

出席者名

出席委員	袖澤利昭	委員
	森中祐治	委員
	齊藤幹	委員
	小倉久子	委員
	岩佐行利	委員
	及川富士雄	委員
	高羽宏	委員
	大内総一郎	委員
	梶原則男	委員
	菖蒲澤正子	委員

事務局	豊田和男	事業管理者
	小川勝	上下水道局長
	永沼浩一	上下水道局次長
	余田慎也	経営企画課長
	宮崎裕治	給排水相談課長
	浅野陽一	上水道課長
	吉田勝祐	上水道課主幹
	鎮目明央	下水道課長
	鹿野浩一	下水道課主幹
	岡村夏彦	経営企画課副主幹
	櫻井昌樹	経営企画課主査補
	飯島香世子	給排水相談課副主幹
	佐藤靖則	給排水相談課主査
	石塚貴彦	上水道課副主幹

西 村 達 也 上水道課主査補
 松 川 佳 孝 上水道課主査補
 中 川 恵 史 下水道課副主幹
 石 塚 雄 基 下水道課主査補

公開・非公開の別 公 開
 傍 聴 人 1 名 (定員 5名)
 所管課名 上下水道局経営企画課
 電話番号 0 4 7 (4 8 3) 6 5 7 2 内線 2 8 0 3

(会議録)

事業管理者挨拶
 職員紹介

【議題 1】 令和 4 年度決算の報告について

袖澤議長	<p>議題 1 としまして、令和 4 年度決算の報告を議題とします。 水道事業と公共下水道事業に分けて報告して下さるようお願いしま す。それでは、事務局より説明をお願いいたします。</p>
余田経営企 画課長	<p>それでは決算について、報告させていただきます。まず、村上地区の 濁り水について、ご報告いたします。</p> <p>令和 5 年 3 月 6 日に発生いたしました村上地区の濁り水について、詳 細につきましては、資料 2 にまとめてございますので、本日の説明では 割愛させていただきます。</p> <p>原因につきましては、平成 3 0 年に策定した八千代市水道施設再構築 基本計画に基づき、令和元年度から継続事業にて実施している村上給水 場の施設改良工事で新たに築造した配水池、この配水池というのが皆さ んに水をお配りする前に一時的に貯めておく貯水槽のようなものでござ いますけども、配水池に水漏れがないことを確認するため、送水管から 注水した際、送配水管内の流速、圧力に急激な変動を生じさせたことか ら、長年にわたり水道管内に付着した水道水に含まれている鉄分やマン ガンが剥がれ落ち、水に混ざり濁り水となって発生したものでございま す。</p> <p>濁り水が発生した地域については、資料 3 をご覧ください。図面に村</p>

<p>余田経営企画課長</p>	<p>上給水場が示されていますが、黒い太線で囲われた箇所となります。市民及び委員の皆様におかれましては、ご不便とご心配をおかけしたことを深くおわび申し上げますとともに、安全で安心な水を供給し続けるために再発防止に努めてまいります。</p> <p>引き続き、議題1の令和4年度決算の報告について、資料1に基づいてご説明いたします。私ども上下水道局では、水道事業と公共下水道事業の2つの事業を行っておりますが、それぞれ別々の会計となっております。</p> <p>まず、水道事業の決算についてご説明いたします。1ページをご覧ください。こちらは、業務量について記載しております。令和4年度末時点で、行政区域内人口(A)が20万4,818人、給水人口(B)が20万3,084人、普及率(B/A)が99.2%となっております。年間の給水量(C)が1,941万717^m、年間の有収水量(D)が1,881万1,005^mとなり、有収率が96.9%となっております。また、供給単価は1^m当たり143.35円、給水原価は1^m当たり164.45円となっております。供給単価が給水原価を下回り、給水収益が減少しておりますが、令和4年度は水道基本料金の免除により発生したものであり、減少した分については、国からの補助金を市からの補助金として収入しています。なお、水道基本料金の免除を考慮せずに算出した供給単価は1^m当たり174.25円となります。</p> <p>続きまして、2ページをご覧ください。収益的収支の説明となりますが、3ページ上段にお示しした損益計算書の円グラフもあわせてご覧ください。収益的収支は、施設の維持管理など、日々の営業活動を行うための費用と、それを補うための収入の状況を表しています。収入につきましては、営業収益は、29億587万円、そのうち給水収益(水道料金収入)は、26億9,647万2千円となっております。営業外収益は13億658万4千円、そのうち納付金は2億6,850万7千円となっております。以上、収入の計は42億1,245万4千円となっております。</p> <p>支出につきましては、営業費用は35億2,721万8千円となっております。営業費用の主なものは、管路・施設の維持管理費、受水費、事務経費、減価償却費、職員人件費などです。受水費とは、八千代市の水道水は、地下水を約半分、もう約半分を北千葉広域水道企業団からの受水により賄っており、この受水に係る費用のことでございます。営業外費用は、1億7,576万5千円で、企業債の支払い利息が主なものと</p>
-----------------	--

なります。以上、支出の計は37億298万3千円となっています。収入から支出を差し引いた純利益は、5億947万1千円となり、黒字となっております。なお、過去10年間の給水収益と当年度純利益の推移は、下の折れ線グラフのとおりとなっております。

次に、資本的収支です。こちら、3ページの下段の円グラフとあわせてご覧ください。資本的収支とは、新たな施設の整備や既存施設の更新を行うための費用とその財源になります。収入の計は、27億4,482万9千円で、内訳は、企業債21億7,210万円、工事寄附負担金、5億5,236万3千円などとなっています。支出の計は、54億499万8千円で、内訳は、建設改良費46億4,762万1千円、及び企業債償還金、7億5,737万7千円となっています。なお、建設改良費のうち、約11億4,460万円が、管路耐震化事業に係る事業費、約20億4,331万円が、村上給水場施設改良事業に係る事業費となっています。資本的収支で生じた26億6,016万9千円の不足につきましては、過年度損益勘定留保資金（減価償却費などの現金を伴わない支出）、減債積立金（前年度純利益）などの内部留保されている資金で補填しています。

4ページをご覧ください。企業債と保有資金残高の説明となります。上下水道局では、浄・給水場や管路の耐震化・老朽化対策のため、施設の更新工事を進めておりますが、自己資金だけで事業費を賄うことは困難であるため、企業債の借入れを行っています。令和4年度の借入額は21億7,210万円、年度末企業債残高は、150億7,103万円、年度末保有資金残高は、24億155万8千円となっております。経営戦略の令和4年度計画残高と比較すると、企業債残高は、計画値よりも約14億円少なく、保有資金残高は約9億円多くなっております。この状況の要因は、保有資金残高では、工事の平準化などにより支払いが翌年度以降となることから、年度末の残高が多くなっているもの、企業債残高では、工事の平準化などにより、支払いが翌年度以降となることにあわせ、工事が完了しない限り、借入れができないことから、借入れ時期も翌年度以降に先送りになったことにより、年度末の残高が少なくなっているものと分析しております。企業債残高の推移は、下段の青い折れ線グラフとなり、近年は増加傾向となっております。資料6、第2次八千代市水道事業経営戦略の実施計画令和5年度版の15ページも合わせてご覧ください。15ページの下から2段目の表が企業債残高の推移となります。令和5年度以降も増加となり、令和9年度には190億円を超える予定となっております。また、近年の物価上昇の影響により

	<p>改良工事費などが上昇傾向にあるため、企業債発行額は経営戦略での計画値を上回り、企業債残高はさらに増加することが予想されます。企業債残高が増加し、事業費の見直しを行ってもなお、収入不足が解消されないようであれば、事業運営に必要な水道料金収入についての検討が必要と考えています。現状の物価・エネルギー価格の高騰は、市民生活にも大きく影響していることから、現在の料金体系ができる限り長く維持できるような事業運営を行うこととし、並行して、コスト面の再精査や給水人口の推移などの分析を進め、料金体系の検討を進めてまいります。</p> <p>5ページをご覧ください。こちらは、水道管路の布設状況及び耐震化の状況となります。令和4年度末における管路の布設状況は、導水管、送水管及び配水管の全ての管の延長の合計が、714.5kmとなっています。耐震管の状況につきましては、耐震管の年度末延長は443.18kmとなり、本市における水道管の耐震化率は62.0%となっています。なお、令和3年度末の千葉県全体の水道管の耐震化率の平均が27.1%となっており、八千代市の耐震化率は県内で高い水準となっています。また、市役所や消防本部、警察署、保健センター、病院、公民館、小・中学校などの避難場所や災害対応活動の拠点を重要給水施設と位置づけ、これらにつながる管路の耐震化を優先的に進めており、この重要給水施設への管路の令和4年度末の耐震化率は、90%となっています。以上で、水道事業会計の説明を終わります。</p> <p>袖澤議長 只今、事務局から説明がありましたが、内容についてご意見、ご質問などがありましたら挙手の上、ご意見をお願いします。</p> <p>梶原委員 村上の濁り水について、発言させていただきます。村上地域の水張り試験を起因とした、水道水の濁り水が3月6日に発生しました。私は、八千代情報メールで知りまして、市公式のホームページを確認しました。その後、市民に対する周知は八千代情報メール、市公式ホームページ、LINEなどで行われ、時間的制約の中で、3月8日の終息までに、市民各層に最善の対策が十分に行き届いたかを検証していただきたいと思います。</p> <p>また、水道施設再構築基本計画によりますと、令和21年度までに4か所の浄水場を廃止し、3か所の浄水場による運用を開始される予定をしています。施設改良工事が進行するのに伴い、再び起こることも考えられますので、体制整備を含めて、防止策を図ることを十分検討してい</p>
--	--

<p>浅野上水道課長</p>	<p>ただき、市民が八千代市水道事業に対する信頼を一層深めてくださるよう、考慮願います。</p> <p>最後に、水道水の濁り水の補償対応についてです。災害の補償と水道料金の減免が柱になるとのことですが、ここでは、損害補償対象について、営業補償及び、貯水槽清掃、住宅設備の補償など、市民や事業者からの合計の申請件数と補償額の報告をお願いします。申請のあった件数と、申請のあった補償額をお教え願います。よろしく願います。</p> <p>今後の情報メール、ツイッター、ラインでの、周知については、検討の余地があるものと考えておりますので、検討の上、迅速な周知を目指していきます。</p> <p>補償については、8月末時点で、申請は終了させていただいてまして、末時点での申請は132件ございます。申請額については、約746万円となっております。現在までに、111件の支払いが済んでいます。111件に対する申請金額は、約533万円でしたが、査定を行い、最終的には、529万円が支払われました。今後、浄水場の改良工事が続いてまいります。今回の事故を踏まえ、十分な検討を重ねて、再発防止に取り組んでまいります。</p>
<p>梶原委員</p>	<p>よろしく願います。ありがとうございました。</p>
<p>袖澤議長</p>	<p>他にありますか。</p>
<p>森中委員</p>	<p>3ページの収益的支出と資本的支出、収益的収支と資本的収支の関係について、下の表、資本的収支の状況の円グラフ、26億円の不足額、内部留保されている資金、過年度損益勘定留保資金、減債積立金は、前年度純利益などで補填されています。この表現だと、前年度の資本を充てていますが、コメントで、減価償却費などを充てているということで、過去の現金支出ですから、この場合、14億円は、損益計算書の上の表での費用に残っているということで、純利益の収支、収入と支出の純利益の合計を足すと約20億となります。よって、不足額は、現在においても、減価償却費を充ててキャッシュフローを賄っているという理解でよろしいでしょうか。</p>
<p>岡村経営企画課副主幹</p>	<p>不足額につきましては、減価償却費、純利益を主に充てておりますが、それでも足りない場合、過去の年度で貯まった、内部で留保してい</p>

森中委員	<p>た資金を使って充てております。令和4年度でいうと、令和2年度の内部留保資金で、資料では確認できない状況となっておりますが、差引きで約6億円を充てて補填しているというような状況であります。</p> <p>不足額の補填は、約6億円で約20億円は、収益的収支の利益と減価償却費、減価償却費は、毎年それほど減らないので、固定資産が多い分、キャッシュフローは、減価償却費が潤沢で、不足は毎年賄えているという想定になるのでしょうか。減価償却費が今年14億円あれば、来年度も極端には変わらないと思います。不足額のかかなりのウエイトについて、キャッシュフローの基盤としては、安全と考えてよろしいでしょうか。</p>
岡村経営企画課副主幹	<p>例えば、建設改良費が厳しければ、建設改良費の額を小さくして、不足額を小さくするなどの調整をして、長いスパンで見たいこうと考えています。現状としては、心配するような要素は特にはないものと認識しております。</p>
森中委員	<p>不足額の金額を見ると、収入の半分に見えますが、キャッシュフローの面から言えば、減価償却費がかなりの部分であるので、危機的な状況ではないという一面がうかがえると理解してよろしいですね。ありがとうございました。</p>
高羽委員	<p>5ページの管路の耐震化への対応状況については、ご記載いただいておりますが、老朽化への対応状況について、法定耐用年数が管路だと40年とありますが、これを経過している管路延長はお分かりになりますか。あと1点、耐震管への交換状況が記載されていますが、管路全体の更新率も分かりましたら教えていただきたいです。</p>
吉田上水道課主幹	<p>まず1点目の40年以上経過している老朽管の延長について、お答えいたします。40年経過している老朽管は、9万8194.6m残っております。総延長が714.5kmありますので、割合としては、13.7%となっております。2つ目のご質問についてですが、管路別でよろしいでしょうか。</p>
高羽委員	<p>管路別ではないです。耐震管の更新だけではなく、老朽管も40年経過していれば交換されていますか。</p>

吉田上水道 課主幹	老朽管も、一部は交換をしています。今、重要給水施設管をメインに交換しておりまして、昨年度の老朽管の更新について、割合で言うと高い割合で交換していると思います。交換した距離がどのくらいかはお説明できないかもしれません。
高羽委員	<p>ありがとうございます。先ほどの説明の耐震化率にもありましたが、八千代市さんは交換率、耐用年数に応じた交換率で現在、13.7%しか残ってないということですから非常に良い状況だと思います。引き続きよろしくお願いたします。</p> <p>もう1点よろしいですか。1ページ、上の表の業務量を見ますと、令和3年度に対して、令和4年度が給水人口、給水件数、共に増えていますが、給水量が減っています。理由を教えてください。</p>
余田経営企 画課長	給水量につきましては、市民の皆様や工場などが使用を控えている状況がございます。物価高騰なども関係して使用を控えているものと分析してございます。
高羽委員	どうもありがとうございました。
岩佐委員	今のご質問に関連する5ページの管の耐震化率が62%と非常に高く、県の平均より高く素晴らしいと思いますが、この内訳として、導水管、送水管、配水管の個別の耐震化率がわかればお教えてください。
吉田上水道 課主幹	導水管、送水管、配水管の耐震化の延長としての割合ではなく、延長となりますが、導水管が約16.9km、送水管が約23.6km、配水管が約402.6kmとなっております。
岩佐委員	ありがとうございます。
大内委員	3ページにあります、冒頭の不足額に関連する確認ですが、建設改良費、令和4年度の前年度に比べて倍増しておりますが、当初の予算どおりでしょうか。浄水場の工事などが増えたということもありましたが、予算対比で増えたのか減ったのか、予想外に増えたのかを確認したいと思います。よろしくお願いたします。

岡村経営企画課副主幹	<p>村上給水場を令和元年度から5年の継続事業として実施しておりますが、最終段階に入ったため、最も支払いが多い時期となり、工事が完成することで、工事費として支出するため、費用が多くなる年度となります。予算として予定しておりました。</p>
大内委員	<p>ありがとうございました。</p>
袖澤議長	<p>他にありますか。では、私から質問です。5ページ、耐震管の接合部分について、工学的な点から興味を持ちました。従来だとずれ易いものですが、耐震用に結合をしている部分は、柔軟性のあるゴムも関係したと思いますが、具体的な構造を教えてください。</p>
浅野上水道課長	<p>現在使っている管種は、GX管です。接手の差し込み部に突起具がついております。突起具を受け口に挿入すると、受け口側にロックリングというロックされるリングがついております。そこにはまると、ロックされ、その凸部がロックリングにロックされてしまいますので抜けなくなる構造となっております。現在の耐震管は、全てこれと同じ構造となっております。</p>
袖澤議長	<p>ありがとうございます。他にご意見ございますか。ないようですので、公共下水道事業の説明をお願いしたいと思います。</p>
余田経営企画課長	<p>続きます。公共下水道事業の決算状況をご説明いたします。7ページをご覧ください。業務量になりますが、令和4年度末時点で、行政区域内人口(A)が20万4,818人、処理区域内人口(B)が18万9,580人、普及率(B/A)が92.6%となっております。また、水洗化率は99.2%となっております。年間の汚水量(D)が、2,115万4,440m³、年間の有収水量(E)が、1,764万64m³となり、有収率が83.4%となっております。また、使用料単価は1m³当たり124.83円、処理原価は1m³当たり120.65円となっております。</p> <p>8ページをご覧ください。収益的収支の説明となりますが、9ページ上段にお示しした損益計算書の円グラフも、あわせてご覧ください。収入につきましては、営業収益は26億8,483万5千円、そのうち主なものである下水道使用料は22億198万4千円となっております。営業外収益が7億7,304万円、特別利益が3,111万9千円となつ</p>

<p>袖澤議長</p>	<p>ております。以上、収入の計は34億8,899万4千円となっております。支出につきましては、営業費用は32億7,242万3千円となっております。主なものは、流域下水道維持管理費及び減価償却費です。営業外費用は1億2,298万2千円となっており、企業債の支払い利息が主なものとなります。以上、支出の計は、33億9,540万5千円となっております。収入から支出を差し引いた純利益は、9,358万9千円となり、黒字となっております。過去10年間の下水道使用料収入と当年度純利益の推移は、下の折れ線グラフのとおりとなっております。</p> <p>次に資本的収支です。こちら、9ページの下段の円グラフとあわせてご覧ください。収入の計は、11億563万6千円で、内訳は、企業債4億5,590万円、国庫補助金4億9,176万5千円、負担金1億2,844万9千円などとなっております。負担金は、浸水対策のための雨水施設に係る経費などの市の一般会計からの負担金、八千代1号幹線など、他市と共同で運用している施設の整備を八千代市が行ったものに係る他市からの負担金などとなっております。支出の計は、24億2,338万2千円で、内訳は、建設改良費18億6,681万7千円、企業債償還金5億5,656万5千円となっております。資本的収支で生じた不足額13億1,774万6千円については、過年度損益勘定留保資金（減価償却費などの現金を伴わない支出）、減債積立金（前年度純利益）などの内部留保されている資金で補填しています。</p> <p>10ページをご覧ください。企業債と保有資金残高の説明となります。近年は、八千代1号幹線沿線地域の浸水被害軽減対策に係る工事などに多額の資金が必要となり、その財源として、企業債の借入れを行ってまいりました。今後も、その他の地域の道路冠水が発生する箇所における雨水排水施設の整備や老朽施設の更新を行っていくための財源として、企業債の借入れを予定しております。令和4年度の企業債の借入額は4億5,590万円、年度末企業債残高は81億194万3千円、年度末保有資金残高は14億9,060万7千円となっております。下水道使用料については、企業債残高は減少傾向にあり、保有資金残高は増加傾向の見込みではありますが、近年の物価上昇の影響による維持管理費の高騰などにより、費用に対して収益が不足する場合には、下水道使用料収入についても検討が必要と考えます。説明は以上となります。よろしく願いいたします。</p> <p>只今の事務局からの説明に対しまして、ご意見、ご質問などがありま</p>
-------------	---

	<p>したら挙手をお願いします。ご質問はありませんか。</p>
袖澤議長	<p>私からですが、八千代1号幹線沿線の浸水被害に対する対策工事などによる費用は、具体的にどのぐらいかかったのでしょうか。分かりましたら教えて下さい。</p>
鎮目下水道課長	<p>大和田南小の地下に作った調整池，そこにつながる流入管，1号幹線へ雨水を吐き出す貯留管布設のシールド工事等々含めて約49億円かかっております。</p>
袖澤議長	<p>それとですね，ゲリラ豪雨などによる冠水が頻繁に起こることも考えられますが，例えば貯留槽などのインフラの設備の充実は考えられていますか。雨を貯めておくための設備の新設などは考えていますか。</p>
鹿野下水道課主幹	<p>はじめに，貯留槽，調整池というのは，市の施策として，開発行為などによって新しく宅地造成が行われる，マンションが建つ場合に，一定の面積を開発する際に，施主様に調整池，貯留槽設置のお願いをしております。ただ，今回，大和田南小で行ったような小学校への地下調整池の設置などについては，今までの下水道というのは1時間50mmの雨が降ったときに耐えられるハード整備を行ってまいりましたが，1時間61ミリ強の雨が降ってしまったことにより，浸水が発生してしまいました。今後，来るであろう大雨に対して，どう対応していくのかについては，調整池で足りるものなのか，管を大きくして川に放流しなければいけないのか，検討に入っておりますが，確定的な結論は，出てない状況でございます。</p>
袖澤議長	<p>ほかにご意見，ご質問あればお願いします。よろしいですか。ないようですので，議題1 令和4年度決算の報告につきましては，終了させていただきます。</p>

【議題2】 第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び、第2次八千代市公共下水道事業経営戦略実施計画の令和4年度取組状況の報告について

袖澤議長	<p>次に、議題2，第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び第2次八千代市公共下水道事業経営戦略実施計画の令和4年の取組状況の報告について、事務局からお願いいたします。</p>
櫻井経営企画課主査補	<p>私から説明させていただきます。第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び第2次八千代市公共下水道事業経営戦略実施計画の令和4年度の取組状況について、資料4，資料5に基づいて、ご説明いたします。</p> <p>本市の上下水道事業の経営の基本計画でございますが、第2次経営戦略を令和元年度に策定しておりますが、経営戦略に掲げた方針に基づき、今後の取組をより具体的に示したものとして、実施計画を策定しております。この実施計画に掲げております令和4年度における取組の実施状況についてご説明いたします。なお、こちらにつきましては、令和5年の9月に作成し、ホームページなどで公表しているものとなります。時間の都合上、主要な取組を中心に説明してまいります。まず、水道事業についての説明と質疑応答を行い、水道事業が終わった後、公共下水道事業の説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくご説明いたします。</p> <p>それでは、水道事業から説明いたします。資料4の、水道事業の取組状況の2ページと3ページをご覧ください。こちらは、実施計画に掲げている1つ1つの取組の内容と目標値の有無、それから、実施状況をA，B，C評価で表にしたものです。A，B，C評価の基準につきましては、2ページの上に記載しておりますが、Aが計画どおり実施した、Bが計画どおりではないが実施した、Cが実施できなかったものとなっております。基本的な評価が、このA，B，Cとなりますが、それ以外に、傍線（－）が、令和4年度における計画がないものとなります。令和4年度は、全部で31項目の取組を計画に掲げていましたが、25項目がA評価、5項目がB評価、1項目がC評価です。B評価、あるいはC評価となった項目につきましては、その理由を、それぞれ取組状況に記載しております。それでは、主要な取組項目の実施状況をご説明いたします。</p> <p>8ページをご覧ください。上段の表の企業債の抑制につきまして、こちらにつきましては、年々増加する企業債残高を圧縮するために、企業</p>

債の借入れを一定の範囲内にとどめることを目標としたものです。令和4年度は、当該年度予算における企業債充当率の上限を56%とする目標値を設定しておりましたが、管路耐震化事業及び村上給水場施設改良事業の財源として、令和5年度への繰越し事業の財源も含めて18億240万円の借入額となり、企業債の充当率は、企業債の対象となる事業費の50.25%となっています。評価はAです。

続きまして10ページをご覧ください。下段の表の水の飲み比べの実施をご覧ください。八千代市総合防災訓練において、水道水と市販のペットボトルの水の飲み比べを実施し、水道水のおいしさをPRしていましたが、市の総合防災訓練がコロナ禍で実施されていなかったため、水の飲み比べも未実施となりました。このため、評価はCです。なお、今年度については、11月12日（日）に八千代市の総合防災訓練が実施される予定のため、訓練当日にきき水を実施いたします。

14ページをご覧ください。上段の表の村上給水場施設改良工事をご覧ください。八千代市内には、7つの浄・給水場がございますが、村上給水場につきましては、特に老朽化が著しく、令和元年度から施設の改良工事を実施しております。本工事は、令和元年度から令和5年度までの継続事業として実施しておりますが、村上給水場施設改良工事（機械・電気）において一部機器について納期の遅れが生じたため、令和5年度に一部の工事期間を延伸いたしました。このため、評価はBです。

次に、16ページをご覧ください。下段の表の取組項目、非耐震管の入れ替えにつきましては、先ほどの決算状況の報告と説明が重複する部分もございますが、令和4年度は、重要給水施設管路及び老朽管について、延長5,795.4mの改良工事を実施し、管路の耐震化率は62%となっており、評価はAです。なお、本事業につきましては、令和2年度から債務負担行為及び繰越しを活用し、施工時期の平準化に取り組んでおります。

21ページをご覧ください。上段の表の取組項目、緊急貯水槽の設置をご覧ください。災害時など、水道水の供給が停止した場合に飲料水の確保ができるように市役所敷地内に容量100m³の緊急貯水槽を設置し、災害時の給水拠点とします。令和4年度の完成を予定していましたが、上下水道局庁舎整備の遅れや入札不調による再入札のため、本工事が遅れたことから令和5年度に工事期間を延伸いたしました。このため評価はBです。なお、令和5年9月に完成しており、本実施計画の令和5年度版において計画の変更をしております。水道事業の説明は以上となります。

袖澤議長	<p>只今の事務局からの説明に対しましてご意見、ご質問などがありましたら挙手をお願いします。ご質問はありませんか。</p>
齊藤委員	<p>12ページをご覧下さい。水質検査を定期的に行っていると思いますが、有機フッ素化合物について、八千代市の場合、どのような取組をしているかを教えてください。行っていないということであれば、今後、実施していただきたい。人体に余り影響がないとも言われていますが、他の自治体では、検査を行っているようなので、実施して市民に情報公開していただきたいです。よろしくお願いします。</p>
石塚上水道課副主幹	<p>検査自体は行っております。今のところ有機フッ素化合物は、検出されておりませんが、年何回行っているかについては、時間をいただきたいです。</p>
齊藤委員	<p>情報公開はいかがでしょうか。</p>
浅野上水道課長	<p>水質検査の結果については、ホームページに公表しております。有機フッ素化合物についての検査結果も合わせて、今後も掲載していきます。</p>
袖澤議長	<p>有機フッ素化合物については、他の自治体で検出されているという報告もあるので、新しい化合物についても、一層詳しく調べていただけることを希望します。</p>
高羽委員	<p>17ページの③漏水対策の推進について、今回、目標値が6500件に対して実績値が4800件となっていますが、調査件数が少なかった原因と少なかったことで次年度以降に影響があるかを教えてください。それから、下の④の応急給水用資機材の整備ということで、給水タンクを毎年整備いただいておりますが、給水タンクの輸送方法についてお聞かせください。最後に、21ページ、⑦の緊急貯水槽の設置についてですが、今回、市役所敷地内に100㎡の緊急貯水槽を設置したということですが、今後、新規の設置計画があれば教えてください。よろしくお願いいたします。</p>

浅野上水道 課長	<p>まず漏水対策についてですが、17ページ、目標値が6500件、実績値4800件となっておりますが、6500件というのは、大和田、萱田町の給水件数ということで、アパートやマンションもそれぞれ、1棟に対して各戸拾ってカウントしたものでございます。実際の調査につきましては、アパート、マンション1棟で1件とカウントしていますので、100戸ある1棟のマンションは、1件としてカウントしています。結果として、4800件ということでございます。</p> <p>応急給水機材の給水タンクについては、給水タンクはタンク車ではなく、タンクそのものでございます。輸送については、トラックによる輸送を考えています。組立式については、その場に置いて、組立てて使います。トラックについては、市内の管工事組合の協力を得てトラックの手配をいたします。</p>
吉田上水道 課主幹	<p>21ページの緊急貯水槽を市役所に設置した経緯といたしましては、再構築計画の中で、浄水場が少なくなる計画で、最終的には3つの浄水場になりますが、緊急貯水槽は、市役所敷地内の他に、現在、勝田台中央公園、西八千代調理場敷地内があるため、市役所敷地内に設置しないとなると、5箇所の給水拠点になってしまうことから、上下水道局庁舎建て替えに合わせて計画を立てました。浄水場の数が縮小していくことに合わせて、緊急貯水槽を新たに設置しようと考えてはいますが、候補地が挙がっておらず、方向が定まってない状況です。</p>
高羽委員	<p>ありがとうございました。</p>
岩佐委員	<p>同じく、17ページの漏水調査について、地道な調査ですが非常に効果がある調査です。先ほど、ご説明がありましたように、耐震化が済んだところ、あるいは更新が終わったエリアと、まだ未着手のエリアによって漏水があるかないかの比較がされているようでしたらお聞かせください。</p>
浅野上水道 課長	<p>申し上げます。比較についてのデータは、持ち合わせておりませんが、耐震化が進んでいる箇所についても、同様に調査を行っております。本管が耐震化されていたとしても、宅内の漏水も考えられます。宅内で漏水とするとお客様の負担になってしまいますので、漏水調査は、耐震化が進んでも継続されます。</p>
岩佐委員	<p>ありがとうございます。</p>

小倉委員	<p>13ページの貯水槽についての質問ですが、貯水槽というのは、受水槽のことかと思いますが、数として、かなり多いと思います。毎年、年50件ずつチェックをなさっているということですが、1か所の貯水槽につき、何年に1度チェックが入るのでしょうか。良い水を供給していただいても、貯水槽で水が悪くなってしまっは、もったいないと思いますので質問させていただきました。</p>
宮崎給排水 相談課長	<p>小規模の貯水槽、つまり、受水槽です。集合住宅などの中につけた受水槽の八千代市全体の数字については、今、持ち合わせてないのですが、毎年50件程度を目標に、限られた範囲の中で訪問して指導しています。</p>
小倉委員	<p>大まかで構わないです。1年に1度位は回っていただいているのか、頻度としてはもっと少ないのかを教えてください。</p>
宮崎給排水 相談課長	<p>市内全体を回るとなると数年に1度ということになってしまうと思います。できる範囲の中で、実施しております。</p>
小倉委員	<p>ありがとうございます。</p>
梶原委員	<p>八千代市民に対する水道事業、下水道事業の周知について、今現在、公式のホームページや上下水道だよりの発行などで行われていますが、その充実を、一層、毎年深めていただきたいと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。先ほど説明がありました、10ページの、八千代市の水の飲み比べの実施については、新型コロナの影響で未実施ということなので、今後、毎年実施していただいて、市民への水道水のおいしさの周知、大変大事なのでよろしくお願いしたいと思います。以上です。</p>
余田経営企 画課長	<p>広報などにつきましては、内容の充実をするなどしていきたいと思っております。水の飲み比べにつきましても、防災訓練の時になりますが、実施することで引き続きPRをしていきますので、よろしくお願いいたします。</p>

宮崎給排水 相談課長	<p>先ほど小倉委員からのご質問についてですが、令和4年度末現在、市内で、389件の小規模貯水槽を把握しております。1年で50件程度ですから、5～6年に1回行っていることとなります。現在、小規模の貯水槽に関しましては、直圧の給水装置がありますので、切り替え、修繕の際にも、直圧のものをご利用いただけるようにお勧めしております。</p>
小倉委員	<p>ありがとうございました。</p>
石塚上水道 課副主幹	<p>先ほどの有機フッ素化合物の検査の件ですが、八千代市の井戸水に関して年に1回検査しています。結果としては、1リットル中、5ナノグラム未満であり、未検出でした。国の暫定目標値が50ナノグラムですので、国の目標値を下回った結果です。結果は、ホームページに公表させていただいております。八千代市の水道水のもう半分を占める受水の北千葉広域水道企業団についても、同様の検査が行われ、同様の基準の結果が出ております。北千葉広域水道企業団のホームページから確認ができます。</p>
袖澤議長	<p>よろしいですか。それでは、次の公共下水道事業の説明に移りたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
櫻井経営企 画課主査補	<p>それでは、公共下水道事業の取組状況についてご説明いたします。資料5の2ページと3ページをご覧ください。公共下水道事業につきましては、全部で27項目の取組を計画に掲げていました。このうち21項目がA評価、6項目がB評価です。引き続き、主要な取組項目の実施状況をご説明させていただきます。</p> <p>5ページのストックマネジメント計画に基づく改築（管路施設）をご覧ください。こちらにつきましては、今後、標準耐用年数を迎える施設が増加してくることから、施設の点検・調査、改築を計画的に行っていくことが重要な取組となっており、本市は、令和元年度に策定した、八千代市下水道ストックマネジメント計画に基づき、下水道施設の改築を進めております。令和4年度につきましては、八千代台地区の污水管渠改築工事を行った他、市内の管渠の点検、調査を行いました。污水管渠改築工事委託については、工事で使用する資材の価格調査や沿線住民との交通規制に伴う協議・調整などに期間を要したことから、令和5年度に工事を延伸いたしました。このため、実施状況は、B評価です。</p>

	<p>また、6ページの上段にも、ストックマネジメント計画に基づく改築（ポンプ場施設）の取組項目がございますが、こちらにつきましては、令和3年度から令和4年度まで継続事業として、北部汚水中継ポンプ場の改築工事を行いました。令和4年度は機械設備及び電気設備工事を実施しました。評価はAです。</p> <p>次に、12ページの未整備箇所の整備をご覧ください。こちらは、宅地化された市街化区域に点在している未整備箇所などの整備を進める取組でございますが、萱田処理分区污水管渠築造工事と江東処理分区污水管渠築造工事につきまして、記載の理由のとおり令和5年度に工事期間を延伸したことから、評価はBです。</p> <p>続きまして、16ページをご覧ください。上段の表の取組項目、八千代1号幹線浸水対策（管渠の整備）をご覧ください。こちらは、平成25年に発生した台風26号により、大きな被害がもたらされた八千代1号幹線浸水対策沿線地域の浸水対策のため、管渠整備を行っている事業となります。この事業は、令和3年度から令和4年度に延伸した工事が実施内容の記載のとおり完成したことで平成28年度より進めてきた八千代1号幹線浸水対策事業が完了しました。評価はAです。</p> <p>経営戦略実施計画の取組状況の説明は以上となります。</p> <p>また、この実施計画につきましては、毎年度ローリングを行い、将来の5か年の計画を策定することとしております。今年度は、令和5年度版の実施計画に基づいて事業を行っております。令和5年度版の実施計画につきましては、水道事業を資料6、公共下水道事業を資料7として配付させていただいておりますが、時間の都合上、内容の説明は省略させていただきます。以上で議題2の説明を終わります。</p> <p>事務局からご説明がありましたが、ご質問、ご意見がありましたら挙手をお願いします。ご質問はありませんか。</p> <p>洪水対策は、年々、大事な仕事になっていると思います。一般市民の方たちが、上下水道局さんの頑張りをご存知ではない気がいたしますので、アピールしていただきたいです。1つの例として、19ページ、土のうステーションについて考えてみます。土のうステーションは、市民の方に知られていますか。応急処置、対処療法ではありますが、少しの浸水であれば、土のうを置くことは、一定の効果があると思いますし、市民にご対応いただけることなので、広めていただきたいです。そのために、土のうステーションがあり、大雨が降ったら土のうを置きましょ</p>
袖澤議長	
小倉委員	

	<p>うというような啓発が大事だと思います。以上です。</p>
鎮目下水道課長	<p>市内の土のうステーションにつきましては、大雨時に浸水が想定されるところを設定して置かせていただいております。設置時に、土のうステーション付近の自治会を通じて回覧させていただいております。現在は、毎年回覧はしていませんが、ホームページ上で周知しております。上下水道局で雨の対策をしていることのお知らせについては、上下水道だよりなどでお知らせするようにしていきます。</p>
小倉委員	<p>土のうの配布や、詰める砂をどこから持ってくるかはありますが、雨の季節に、自治会を通じて浸透させておくのと良いと思います。</p>
鎮目下水道課長	<p>土のうは、砂の入った状態でかごに置いて、50袋から100袋くらい用意しています。市民の方々にこれを積んでいただけるようにしてあります。</p>
小倉委員	<p>ありがとうございました。</p>
及川委員	<p>実施状況の評価について、Aが計画どおり実施した。Bが計画どおりではないが実施したとなりますが、14ページ、ポンプ場機械修繕のB評価の理由が、異音、異常動作などが確認されなかったために保留したとして、評価をBとされていますが、理由で示されている判断で実施されていないのであれば、評価をAとして良いと思いますが、いかがでしょうか。</p>
鎮目下水道課長	<p>予定されていた修繕の年度を延ばしておりますので、実施できていないことをもって評価をBとしております。</p>
及川委員	<p>分かりました。</p>
袖澤議長	<p>他にご質問はありますか。では、私から質問いたします。14ページの不明水対策の目標値が380件で実績値が0件となっています。実施内容で佐山処理分区の調査について、実施したと記載されておりますが、この実績値は低いと思われませんがいかがでしょうか。</p>

鎮目下水道課長	計画の中で、送煙調査と不明水調査について、2つの委託を予定しておりました。不明水調査の委託は実施しておりますので、2つのうち、1つは、実施できております。送煙調査については、380件の調査を計画していましたが、これについての調査件数が0件となります。
袖澤議長	もう1点、質問いたします。15ページの④、未接続の解消について、収入に影響するところですが、目標値が300件、実績値が571件と2倍の努力をされたと思います。実際に接続された件数を教えてください。
宮崎給排水相談課長	571件の訪問・調査を行い、解消されたのは34件でございます。
袖澤議長	個別訪問されていますが、若い世帯では、共働きで、訪問時にいらっしやらない世帯が多いかと思いますが、そういった場合、イベントなどにパンフレットを置くなどして、後で申込みを受けるということでしょうか
宮崎給排水相談課長	現地を確認しておりますが、毎年、継続して行っていますが、現状として、お会いすることが難しい世帯が残っている状況です。家屋の改修や建て替えなどのきっかけがないと接続いただけない状況ではありますが、現地を確認して、お会いできる場所があれば、お話をし、接続いただけるように進めております。
袖澤議長	どうもありがとうございます。他によろしいですか。
吉田上水道課主幹	上水道事業の取組状況の中で、高羽委員からのご質問に回答させていただきます。40年経過した水道管を令和4年度に新しい水道管に交換した距離と、令和4年度の工事の中で、交換した割合についてお答えいたします。令和4年度に実施した工事延長は、約5.8kmですが、この中で、昭和57年度以前の水道管を交換した距離は、約3.3kmとなりますので、割合は約57%です。
高羽委員	ありがとうございます。
袖澤議長	何かありますか。ないようなので、第2次八千代市水道事業経営戦略

	<p>実施計画及び第2次八千代市公共下水道事業経営戦略実施計画の令和4年度取組状況の報告について、終了させていただきます。以上で本日の議事は全て終了しました。ありがとうございました。</p>
--	---

以上